

滋賀県平和祈念館 年報

第 3 号

(平成 26 年度)



滋賀県平和祈念館

はじめに

滋賀県平和祈念館は、平成24年(2012年)3月、「語りつぐ 平和へのねがい」を指針として、県民のみなさまの大きな期待と希望を担って開館しました。開館の初年目にあたる平成24年度の活動(23年度分を含む。)については、『滋賀県平和祈念館 年報』第1号(平成25年(2013年)12月刊行)、平成25年度の活動については『滋賀県平和祈念館 年報』第2号(平成26年(2014年)7月刊行)にまとめ、報告したところです。本号では、引き続き平成26年度の活動をまとめています。

当館では、「モノと記憶の継承」、「自らできることのきっかけづくり」、「県民参加型の運営」という3つの基本方針のもとで、県民の戦争体験を語り継ぐ事業として、展示事業をはじめ、資料収集保存事業、普及啓発事業、平和学習支援事業、ボランティア活動支援事業などを行っています。

平成26年度の展示事業としては、第8回企画展示『還らなかった友へ～時代に翻弄された友人、そして家族～』、第9回企画展示『子どもたちの見た滋賀の戦争』、第10回企画展示『収蔵品が語る戦時の想い』のほか、特別企画展示『故郷(ふるさと)』や地域交流展示『戦場に輝くベガ』パネル展などを行いました。また大津市立上田上小学校より寄贈いただいた「奉安庫」を2階に常設展示しました。そして戦争体験聞き取り調査や収集資料の整理は、引き続き精力的に続けています。

平成26年度の普及啓発事業では、戦争体験者のお話を聞く会や平和学習講座、体験学習イベントや戦争遺跡見学、夏休みミュージアム・スクール「へいわの学校☆あかり」、そして子どもピースメッセージ・コンクールや自分史づくり講座など、大人から子どもまでが参加できる様々な事業を行いました。平和学習支援事業では、学校生徒の来館学習や出前授業、資料の貸出に加えて、平成26年度より地域への平和学習支援として、出前講座を新たに開始しました。

当館ではボランティア活動もさかんで、約60名の方が語り部・語り継ぎ部活動をはじめ、7つのグループ活動があり、当館の様々な事業で協働がすすんでいます。

当館は県民のみなさまのご支援をいただきながら、開館3年目を乗りきることができました。これからも日々、当館の運営を見直し、改善を行うため、本誌をご高覧いただいたみなさまには、忌憚のない意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

そして今後とも当館の運営にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

平成27年(2015年)7月

滋賀県平和祈念館

館長 端 信 行

目 次

はじめに	1
I 事業概要	
1 展示事業	
(1) 企画展示	3
(2) 特別企画展示	16
(3) 地域交流展示	17
(4) その他の展示	19
2 資料収集保存事業	
(1) 戦争体験聞き取り調査	22
(2) 収蔵資料の整理・保存	23
3 普及啓発事業	
(1) 平和学習講座	24
(2) 戦争体験を聞く会	25
(3) 戦争遺跡見学フィールドワーク「米原蒸気機関車避難壕の見学」	27
(4) 平和を祈念する日事業「戦争のこと おしえて」	27
(5) プラネタリウム番組「戦場に輝くベガ」	29
(6) 特別講演「ベガのはなし」	30
(7) 開館3周年記念事業	30
(8) 館長講座「自分史づくり講座」	32
(9) 特別講演「自分史のすすめ」	32
(10) 体験学習イベント「そだてて、たべよう！戦時食」	33
(11) 夏休みミュージアム・スクール「へいわの学校☆あかり」	34
(12) 平和を願う子どもピースメッセージコンクール	36
4 平和学習支援事業	
(1) 来館学習の支援	38
(2) 出前授業	38
(3) 地域への平和学習支援	39
(4) 資料の貸出による平和学習支援	39
(5) 戦争体験者証言映像の制作	40
5 ボランティア活動支援事業	41
II 資料	
1 利用状況	43
2 広報活動	47
3 組織	51
4 決算	52
5 施設概要	53
6 利用案内	54
7 関係規程	55

1 展示事業

(1) 企画展示

第8回企画展示「還らなかった友へ ～時代に翻弄された友人、そして家族～」



第8回企画展示

- 会期 平成26年(2014年)6月28日～9月28日
- 会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース
- 関連展示 夏の広告塔 団扇(うちわ)
- 開催趣旨と概要

昭和のはじめのころ、今と変わらない日常の暮らしの中で、常に隣り合わせにあったのが「戦争」、すなわち「死」だった。「戦争」は若者たちの思想に影響を与え、その家族をも傷つけてしまう。

本企画展示では、戦地へ旅立ち、還らなかった一人の青年について、友人や家族の証言、資料から思いを寄せ、当時の青年たちが過ごした時代に何が起こり、人びとは何を思っていたのかを伝えた。



第8回企画展示チラシ 表面



第8回企画展示チラシ 裏面

○展示構成

「幼少期 ー13歳までの幼なじみー」

高橋さんが生まれる前に、お父さんは病死されていた。そのため、お母さんと一緒に住んでいたおばあさんに、家の跡取りとして大切に育てられた。昭和2年（1927年）、湯田尋常高等小学校（今の長浜市立湯田小学校）へ入学してからは、成績も優秀で、級長（今の学級委員）にもなった。



「青春を過ごした十代半ば ーお国のためと志願を決意ー」

虎姫中学校（今の滋賀県立虎姫高校）に進学した高橋さんは、中学3年生の15歳のとき、「お国のためだから」と昭和12年（1937年）、海軍が搭乗員養成のために設けた甲種飛行予科練習生に志願した。当時、幹部候補生を養成した海軍兵学校相当の難関試験に見事合格し、翌年の3月に虎姫中学校を4年で中退して、入隊することになった。



「予科練での厳しい訓練 ー飛行機乗りになるのが夢でしたー」

高橋さんは昭和13年（1938年）4月1日、横須賀海軍航空隊（第2期甲種飛行予科練習生）へ入隊した。入隊後も高橋さんの大変まじめな性格は変わらず、「飛行機乗りになるのが夢」と語りながら、厳しい訓練の日々を過ごした。その後、飛行予科練習生を卒業し、昭和14年（1939年）には海軍三等航空兵曹として任務に就いた。



「攻撃に参加 ー二次攻撃隊としてー」

高橋さんは、宇佐海軍航空隊から航空母艦「蒼龍」の爆撃機搭乗員として任務に就いた。そして、昭和16年（1941年）12月に西太平洋での攻撃へ参加し、搭乗機が被弾したため、米軍の艦艇に体当たり攻撃し、戦死した。高橋さんの20歳の誕生日まで、あとひと月あまりの出来事であった。



「手紙を読む」

故郷に暮らす母を思いながら送った手紙と予科練時代のノート「海鷲」から、高橋亮一さんの当時を見つめ、来館者に問いかける展示をした。



「残された家族、そして友」

友人たちは、高橋さんの死を知っても心が大きく動くことはないほど、死が日常化した毎日を送っていた。亡くなった高橋さんを周囲は軍神と呼び、お母さんは軍神の母と崇めた。しかし、終戦を境に周囲の態度が一変してしまった。一人息子の高橋さんを失ったお母さんの悲しみは深く、高橋さんのことは何も語らなくなってしまった。しかし、高橋さん愛用の品々や遺書などは大切に保管されていた。



○関連展示

収蔵展示スペースにおいて、古くは儀式や占いなどの信仰の場で用いられ、江戸時代に入ると夏の風情を楽しむ生活道具として広まった団扇を取りあげた。戦前の団扇は、国民の戦意高揚などの国策に利用され、兵士が飛行機、日の丸などの絵柄が描かれたものが多く作られた。



第9回企画展示「子どもたちの見た滋賀の戦争」



第9回企画展示

- 会期 平成26年(2014年)年10月4日～12月21日
- 会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース
- 関連展示 県民の方から寄贈いただいた軍装品
- 開催趣旨と概要

本企画展示では、「少国民」「戦時の学校」「戦時の暮らし」「滋賀県の空襲」「集団学童疎開」「学徒勤労動員」の6つコーナーを設けて、戦争中、子どもだった人たちの視点から当時の出来事などを紹介した。当時の子どもたちが、どのような体験をし、どんなことを考えていたのかを知ること、世代を超えて平和について考えた。



第9回企画展示チラシ 表面



第9回企画展示チラシ 裏面

○展示構成

「少国民 ー子どもは立派な国民だったー」

子どもたちは「少国民」と呼ばれ、「子どもでも立派な国民で、戦争に協力しなければならない。」と教えられていた。天皇陛下に仕える小さな皇国民という意味で呼ばれ、当時の男の子たちは兵士になってお国のために戦うことが夢だった。



「戦時の学校」

昭和16年(1941年)、小学校のよび方が「国民学校」になると、学校は授業の内容や作業にも戦争への協力が求められるようになった。木銃（木でつくった銃の模型）を使って戦争の訓練をする授業が行われたり、食糧増産のために運動場にサツマイモを植えたりした。



「戦時の暮らし」

地域では、戦争を続けていくために食べ物や金属などを差し出す「供出」や、戦地に行く兵士の見送り、そして空襲に備えた防空演習、国内が戦地になったときに備えて竹やりで敵をたおすための訓練が行われた。日々の生活は戦争によって影響を受け、変化していった。こうした戦争を支える地域や人々は「銃後」と呼ばれ、その中心は女性たちだった。



「滋賀県への空襲」

滋賀県内では昭和 20 年（1945 年）5 月から、軍事施設や軍需工場があった地域をだけでなく、学校や駅、人が乗っている列車への空襲もあった。滋賀県への空襲は、飛行機の機銃掃射による攻撃がたびたびあった。今回は、昭和 20 年（1945 年）7 月 30 日の守山駅一帯に起きた機銃掃射の被害である被弾した家屋の一部を公開した。



「学徒勤労働員 ー勉強よりも増産ー」

戦争が長引き、働き手である多くの男性が戦争へとかり出されると、今の高校生や中学生にあたる生徒たちは、農業などを手伝うようになった。そして、滋賀県内をはじめ都市にある軍需工場などで働かなければならなくなった（「学徒勤労働員」）。昭和 20 年（1945 年）には、国民学校高等科（今の中学 1・2 年生）の生徒たちまでもが、授業の代わりに食料や兵器の増産のために、働くことが求められた。



「集団学童疎開 ー戦火を逃れてやって来た子どもたちー」

空襲にそなえ、東京、名古屋、大阪など大都市の子どもたちは、学校ごとに比較的
安全な地方にまとまって移動し、生活することになった（「集団学童疎開」）。

昭和 19 年（1944 年）に大阪市内から、集団学童疎開児童の 1 万人以上が、子ども
たちは家族と別れて、友達や学校の先生とともに、滋賀県にやってきた。戦後、大阪
へ帰った疎開児童を待っていたのは、空襲で焼けてしまった大阪のまちだった。



○関連展示

収蔵展示スペースでは、「県民の方から寄贈いただいた軍装品」を開催した。貴重な軍服や出征幟をはじめ、当時の雑誌を一部紹介した。



第10回企画展示「収蔵品が語る戦時の想い」



第10回企画展示

- 会期 平成27年(2015年)1月7日～6月21日
- 会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース
- 関連展示 平成26年度新規収蔵資料展
- 開催趣旨と概要

平成27年(2015年)は、昭和の15年にわたる戦争の終結から70年にあたる。滋賀県では、約20年前から、ご遺族をはじめ平和を願う県民の方のご協力のもとに、当時の資料の収集・保存を続け、それらの資料にまつわることがらを聴きとりしてきた。これらの資料一つひとつには「語り」がある。人びとを〈護る〉、出来事や想いを〈記す・伝える〉、見送る人びとの〈祈り〉を表し、戦時を生きた人びとの思いがある。これら資料の「語り」に耳をかたむけ、平和の大切さを考えていくことをねらいとした。



第10回企画展示チラシ 表面



第10回企画展示チラシ 裏面

○展示構成

「護る」

人間の命をかけた戦場で、死に直面しながら生き残ることができた人びと、生きて帰ることのできなかつた多くの人びとがいた。兵士らが身につけていた軍用品には、その人の命をかけた証が刻まれている。



戦地に行くまで



戦地



「記す・伝える」

書き綴られた手紙やはがきは、遠く離れた家族・友人の想いや生きている証を届けた。また日々の出来事をつぶさに記録した日記や写真は、日常の中に戦争があったことを今に伝えている。当時を記録した資料は、個人や地域の出来事、人びとの想いを伝えている。



手紙を読む



戦争が終わっても



アルバム



「祈る ー遺された資料からー」

戦地へ向かう人を見送る人びとは、彼らが無事に故郷へ帰ってくることを祈った。また戦地で倒れた人だけでなく、帰りを待っていた人びとも戦争の犠牲になった。遺された資料から、かつて使っていた人の面影や家族の想い、そして平和の大切さを語りかけている。



遺された資料



祈り



○関連展示

収蔵展示スペースでは、資料収集の喚起を狙いとして、平成 26 年度に県民の方から寄贈いただいた資料の一部を紹介した。資料は、軍服や勲章など軍隊にまつわるものから、家族からの手紙、空襲に備えたであろう防火弾など多様である。



(2) 特別企画展示

第3回特別企画展示 「故郷（ふるさと）」

- 会期 平成26年（2014年）4月1日～平成27年（2015年）3月22日
- 会場 滋賀県平和祈念館エントランス
- 開催趣旨

滋賀は、美しい琵琶湖、人びとの住む里、そしてこれらを取り巻く自然と人びとが共存してきた。その結果、自然と人びとの生活とが一体となり、湖国の風景が形作られてきた。これらの風景は、戦争で故郷を離れなければならなかった多くの人びとの心のよりどころとなり、厳しい時代のなかでも故郷や家族への想いは失われなかった。本展示では、昭和のはじめに撮影された故郷の情景から、おだやかだった日常の生活にも戦争の影響があったことを、改めて見直すきっかけづくりをねらいとした。



第3回特別企画展示

(3) 地域交流展示

プラネタリウム番組「戦場に輝くベガ ー約束の星を見上げて」パネル展

○会期 平成 26 年（2014 年）6 月 28 日～9 月 28 日

○開催趣旨

平和を祈念する日事業「戦争のこと おしえて」のプログラム「プラネタリウム番組『戦場に輝くベガー約束の星を見上げて』」の関連イベントとして、戦時下における星の役割やプラネタリウム番組で描かれた戦時中における星を使用した作業（「高度方位暦」の計算）などについて、パネルで紹介した。



プラネタリウム番組「戦場に輝くベガ
ー約束の星を見上げて」パネル展

「アニメーション原画展」

○会期 平成 26 年（2014 年）10 月 4 日～12 月 21 日

○開催趣旨

平成 25 年度に小中学校向けの平和学習教材として制作したアニメ画入りの戦争体験者証言映像をより広く県民の皆さんに知ってもらおうと、映像作品で使用したアニメ画の原画を展示した。同時に視聴スペースを設けて映像の視聴も可能とした。



アニメーション原画展

「ピースメッセージ展」

○会期 平成 27 年（2015 年）1 月 7 日～（2 月 1 日から 2 階ギャラリーで展示）

○開催趣旨

平成 26 年（2014 年）9 月～12 月の間に当館で来館学習をした児童・生徒たち 1,859 人に「ピースメッセージ」と題して、平和への思いや感想を自由に書いてもらったものを展示した。



ピースメッセージ展

「戦時をふりかえり、平和をねがう作品展」

○会期 平成 27 年（2015 年）2 月 1 日～3 月 22 日

○開催趣旨

戦時の出来事を語りつぎ、平和を願う心を育むことの大切さを平和祈念館のある愛東地区から発信することをねらいとして、東近江市の愛東地区に在住、在勤の方が、「戦時に思いをはせ、平和へのねがい」を絵画や書道、詩などで表現した作品や愛東地区の小中学生が平和への願いを込めてかいた絵やメッセージなどを展示した。



戦時をふりかえり、平和をねがう作品展

(4) その他の展示

「奉安庫」常設

- 会期 平成 26 年（2014 年）6 月 28 日～
- 展示場所 滋賀県平和祈念館 2 階 研修室横壁面
- 開催趣旨

当館の新たな常設展示資料として、大津市立上田上小学校より寄贈いただいた奉安庫を設置した。戦前の学校では、明治の終わり頃から、紀元節、天長節、新年、明治節の国家祝賀式典には、宮内省から各学校に貸与された天皇と皇后の写真（以下、「御真影」）に最敬礼し、「教育勅語」を奉読する儀式が執り行われていた。この儀式の際に使用する「御真影」と「教育勅語」を納める奉安所として、各学校の講堂や校長室などに奉安庫が設置された。

大津市立上田上小学校の奉安庫は、昭和 8 年（1933 年）10 月 7 日に竣工された講堂に設置されていたが、昭和 58 年（1983 年）、講堂が老朽化のために解体された際に奉安庫の枠のみ取り出し、校舎の階段の踊り場に移設された。平成 25 年（2013 年）には、設置されていた校舎の改修が決まったため、当館へ寄贈いただいたものである。



奉安庫展示